

東京の地下鉄の運営改革会議（第2回）

日 時：平成26年1月31日（金）17:30～18:00

場 所：都庁第一本庁舎33階南塔特別会議室S1

次 第

1. 開会

2. 議題

- (1) 東京の地下鉄のサービスの改善・一体化等の取組状況
（中間とりまとめ）について
- (2) その他

3. 閉会

（配布資料）

○議事次第

○資 料 …… 東京の地下鉄のサービスの改善・一体化等の取組状況
（中間とりまとめ）

東京の地下鉄のサービスの改善・一体化等の取組状況(中間とりまとめ)

1. 主としてサービスの改善に関する項目

項目・今後の方向性	第1回会議開催(平成25年7月)時点の状況	取組内容と今後の予定
<p>① バリアフリー化</p> <p>○都営地下鉄と東京メトロの乗継時のバリアフリー化など、更なるバリアフリーの充実について検討を進める。</p>	<p>○1ルート整備率については、平成24年度末時点で、都営地下鉄は97%、東京メトロは86%となっている(都営地下鉄は平成25年度、東京メトロは平成26年度中に100%となる見込み)。</p> <p>○また、多機能トイレの整備率については、平成24年度末時点で、都営地下鉄は100%、東京メトロは91%(平成27年度に大規模改良中の一部の駅を除いて100%となる見込み)となっている。</p>	<p>○1ルート整備について、都営地下鉄は平成25年度末に完成予定、東京メトロは平成26年度中の100%整備を目指して推進</p> <p>○多機能トイレの整備について、東京メトロは平成27年度中の100%整備^(※)を目指して推進 (※)大規模改良工事予定の駅を除く</p> <p>○都営地下鉄と東京メトロの乗換駅における乗継ルートへのエレベーター整備を今後とも推進</p> <p>○両地下鉄とも、更なるバリアフリーの充実について引き続き検討</p>
<p>② ホームドア整備</p> <p>○相互直通運転の相手方との調整等を進め、ホームドアの更なる整備について検討を進める。</p>	<p>○ホームドア整備率は、平成25年6月末時点で、都営地下鉄は61%、東京メトロは45%(現在着手している有楽町線、銀座線の整備が完了した際(平成30年度予定)には56%)となっている(※)。</p> <p>(※)整備済の路線 …(都営地下鉄)三田線、大江戸線 (東京メトロ)南北線、副都心線、丸ノ内線 千代田線(北綾瀬～綾瀬間)</p> <p>整備中の路線 …(東京メトロ)有楽町線、銀座線 未着手の路線 …(都営地下鉄)浅草線、新宿線 (東京メトロ)千代田線、日比谷線、半蔵門線、東西線</p>	<p>○東京メトロ有楽町線については平成26年2月8日(土)に全駅設置完了予定、銀座線については平成30年度中の全駅設置^(※)を目指し、整備を推進 (※)大規模改良工事予定の駅を除く</p> <p>○両地下鉄とも、その他の路線については、相互直通運転他社と協議しつつ、引き続き検討</p>
<p>③ 混雑の緩和(遅延防止)</p> <p>○駅・設備等の改良、ソフト施策などによる混雑緩和・遅延防止対策について検討を進める。</p>	<p>○地下鉄の混雑率は、列車運行本数の増加等の混雑緩和対策を進めてきた結果、両地下鉄とも緩和傾向にある(※)。</p> <p>(※)混雑率の状況(平成12年度→平成23年度) 都営地下鉄 浅草線(128%→113%)、三田線(137%→145%)、新宿線(152%→150%)、大江戸線(134%→155%) 東京メトロ 日比谷線(173%→153%)、銀座線(173%→156%)、丸ノ内線(160%→152%)、東西線(197%→199%)、南北線(96%→149%)、有楽町線(176%→167%)、千代田線(192%→177%)、半蔵門線(171%→161%) (注)三田線、大江戸線、南北線については、平成12年に延伸が行われている。</p> <p>○東京メトロ東西線については、周辺開発の進展などの影響により、朝の混雑率は依然として199%(体がふれあい相当圧迫感がある状態)と高い水準にあることから、南砂町駅や木場駅の大改良、都心部における折り返し線整備の検討などを進めている。</p> <p>○都営地下鉄勝どき駅、東京メトロ豊洲駅などは、再開発などにより利用客数が急増しており、現在、混雑緩和のための駅の改良が行われている。</p>	<p>【都営地下鉄】</p> <p>○勝どき駅で、ホーム増設・コンコース拡張を施工</p> <p>○新宿線において現行の8両編成から10両編成化を推進</p> <p>【東京メトロ】</p> <p>○東西線においては、南砂町駅や木場駅等5駅で改良工事を推進。また、早朝・深夜の列車増発、オフピークキャンペーン等を実施</p> <p>○その他の路線においても、千川～小竹向原駅間の連絡線設置工事をはじめ、混雑緩和、遅延防止に向けた取組みを推進</p> <p>○両地下鉄とも、更なる混雑緩和・遅延防止対策を引き続き検討</p>
<p>④ 運行時間の拡大</p> <p>○拠点駅から郊外方面への終電・深夜バス等とのより円滑な接続を進める観点から、安全を確保しつつ、運行時間の拡大等の可能性について検討を進める。</p>	<p>○都営地下鉄、東京メトロともに、山手線の拠点駅への終電時間は0時台となっている。</p>	<p>【都営地下鉄】</p> <p>○平成26年3月15日(土)に、三田線で増発、大江戸線で区間延長による最終列車の繰り下げを実施予定</p> <p>【東京メトロ】</p> <p>○区間延長による最終列車の繰り下げを平成25年11月1日(金)に丸ノ内線、平成25年12月2日(月)に東西線で実施。平成26年3月15日(土)に半蔵門線・南北線でも実施予定</p> <p>○平成26年度には、東西線で増発による最終列車の繰り下げを実施予定</p> <p>○両地下鉄とも、安全を確保しつつ、更なる運行時間の拡大等の可能性について引き続き検討</p>

項目・今後の方向性	第1回会議開催(平成25年7月)時点の状況	取組内容と今後の予定
<p>⑤ 防災対策の推進</p> <p>○災害時における利用者の安全確保や地下鉄機能の維持・早期復旧に向けて、<u>更なる防災対策を連携して取り組む。</u></p>	<p>○両地下鉄とも首都直下地震等に備え、高架橋柱等の耐震化を進めている。</p> <p>○両地下鉄とも、災害対策用備蓄品を各駅に配備するとともに、非常災害時に緊急情報を放映するため改札口へのディスプレイの配置を進めている。</p> <p>○両地下鉄とも水害に備え、対策を進めている。</p>	<p>【都営地下鉄】【東京メトロ】</p> <p>○施設の安全性を高め、早期の運行再開を図るため、高架橋柱の耐震補強等を実施^(※)</p> <p><small>(※)国の通達に基づく耐震対策は実施済</small></p> <p>○大規模浸水対策として、出入口、換気口等における対策の強化を推進</p> <p>【両地下鉄が連携した取組み】</p> <p>○大規模自然災害の発生を想定した両地下鉄合同の防災訓練を平成26年1月17日(金)に九段下駅にて実施</p> <p>○両地下鉄の乗換駅において、水害時の利用者の避難確保・浸水防止計画を連携して策定予定</p> <p>○両地下鉄とも、相互に連携しつつ、引き続き防災対策を推進</p>

2. 主としてサービスの一体化に関する項目

項目・今後の方向性	第1回会議開催(平成25年7月)時点の状況	取組内容と今後の予定
<p>① 乗継改善等</p> <p>○各乗換駅において地下鉄利用者の乗継等の不便解消の可能性を検証し、<u>更なる乗継改善等の洗い出しを進める。</u></p> <p>○都営地下鉄の路線同士、東京メトロの路線同士の駅の乗継改善等の可能性についても検討を進める。</p>	<p>○都営地下鉄と東京メトロの乗換駅は現在29駅となっている。うち岩本町駅・秋葉原駅間については、平成25年3月に乗換駅の追加指定を行った。</p> <p>○改札通過サービスについて、平成25年3月に春日駅・後樂園駅、市ヶ谷駅の2ヶ所で導入した。</p> <p>○乗継改善のための壁の撤去について、平成25年3月に九段下駅で行った。</p>	<p>○平成25年9月27日(金)に六本木駅において改札通過サービスを開始</p> <p>○平成26年3月15日(土)に門前仲町駅において改札通過サービスを開始予定</p> <p>○お客様のニーズや駅の構造等を考慮しつつ、更なる乗継改善等について両地下鉄で引き続き検討</p>
<p>② サインシステムの統一等</p> <p>○利用者がサービス一体化を実感できるよう、<u>更なるデザインや情報提供の仕様の統一等の可能性について、検討を進める。</u></p>	<p>○平成16年4月に、駅ナンバリングを実施するとともに、都営地下鉄と東京メトロの統一路線図を作成した。</p> <p>○平成18年度以降、駅全体の案内サインについて、デザインの統一化を進めている。</p> <p>○平成24年1月に、駅のバリアフリー設備の一覧等を掲載したハンドブックを共同で作成した。</p>	<p>○平成25年度末に、駅全体の案内サインについて、デザインの統一化を完了予定</p> <p>○平成26年4月から両地下鉄共通の特典冊子(一日乗車券購入者向け)を共同で発行予定</p> <p>○駅ナンバリングのさらなる活用や外国人旅行者への多言語対応など、より分かりやすいご案内や、両地下鉄共同の利用促進企画の実施等について両地下鉄で引き続き検討</p>
<p>③ 運賃施策</p> <p>○両地下鉄を乗り継いだ際の運賃の割高感の軽減を図るため、<u>更なる運賃の乗換負担軽減策の可能性について検討を進める。</u></p>	<p>○初乗り運賃について、都営地下鉄は170円、東京メトロは160円となるなど、両者の運賃体系は異なっている。</p> <p>○都営地下鉄と東京メトロの乗継割引については、昭和36年に導入(10円)以降拡充され、平成12年以降は70円となっている。</p> <p>○また、平成12年より両地下鉄の共通一日乗車券(1000円)を発売中。</p>	<p>○更なる運賃の乗換負担軽減策の可能性について、両地下鉄で引き続き検討</p> <p>○平成26年4月から、国内外の旅行者向けの両地下鉄共通乗車券(一日券～三日券)を発売予定</p>

3. 主として運営の連携に関する項目

項目・今後の方向性	第1回会議開催(平成25年7月)時点の状況	取組内容と今後の予定
<p>① 人的交流</p> <p>○両地下鉄が連携し、サービスの改善・一体化に取り組むため、<u>職員の人事交流や合同研修をはじめとした、両地下鉄間の人的交流の拡大について検討を進める。</u></p>	<p>○平成25年3月には、両地下鉄合同で帰宅困難者対応訓練を実施するなど、相互の交流が進められている。</p>	<p>○平成25年9月1日付けで課長級2名ずつ(計4名)の人事交流を実施 ○平成26年度から、係員級の人事交流を実施予定 ○サービスの改善・一体化等に向けて、両地下鉄それぞれで実施する社内発表会に職員・社員が相互に参加するなど、両地下鉄間の人的交流を引き続き実施</p>
<p>② 利用者への調査等の共同実施</p> <p>○サービスの一体化を推進するため、<u>利用者への調査等の共同実施について検討を進める。</u></p>	<p>○両地下鉄とも、利用者への満足度調査の実施やモニター制度の導入により、サービスの向上に努めている^(※)。</p> <p><small>(※)都営地下鉄:「お客様満足度調査」及び「都営交通巡回モニター」を実施。 東京メトロ:「お客様満足度調査」及び「東京メトロお客様モニター」を実施。</small></p>	<p>○平成26年度の実施に向け、両地下鉄で引き続き検討</p>
<p>③ 共同研究の実施</p> <p>○地下鉄の施設管理等に必要な<u>技術の調査研究の共同実施について検討を進める。</u></p>	<p>○地下鉄の安全安心を確保するための技術開発について、都営地下鉄と東京メトロで意見交換を実施。</p>	<p>○平成26年度の実施に向け、両地下鉄で引き続き検討</p>

第二回東京の地下鉄の運営改革会議 配席図

随行者

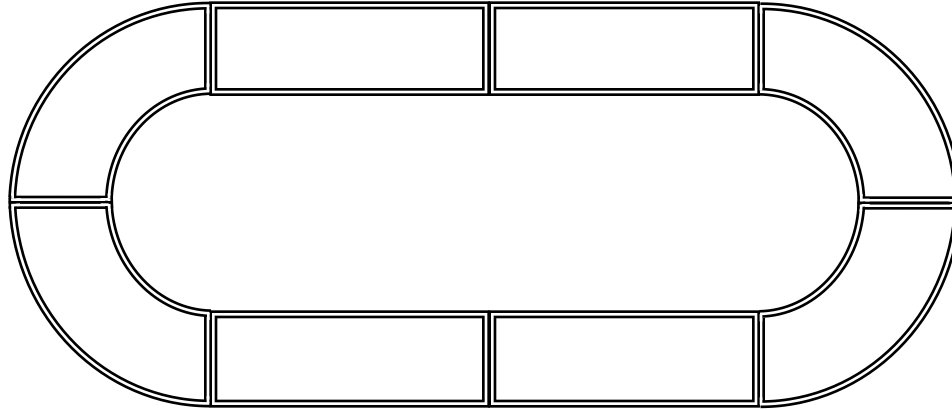
都市整備局
地下鉄改革担当部長
牧野 和宏

東京都副知事
(代理)都市整備局理事
佐野 克彦

国土交通省鉄道局長
(代理)官房審議官
羽尾 一郎

鉄道局
都市鉄道政策課長
堀内 丈太郎

出入口



鉄道統括部長
米 彰

東京地下鉄(株)代表取締役社長
(代理)鉄道本部長
入江 健二

東京都交通局局長
(代理)交通局次長
塩見 清仁

交通局
企画担当部長
広瀬 健二

随行者

随行者